



# 東中だより

No. 08 令和7年11月28日(金)余市町立東中学校 発行

校訓…「進取」「利他」

## 学校教育目標

- 自律…自ら考え判断し行動する
- 尊重…多様性を受け入れ対話し解決する
- 創造…豊かな発想で新たな価値を生み出す

## 「広島県竹原市」視察研修から

校長 明村 秀之

11月にしては気温の高い日もありますが、霜が降りた日もあり、気温の変化に体がなかなかうまく対応できていないのではないかと少し心配になります。この1ヶ月で、後志管内の町村にはインフルエンザの流行のため、学校閉鎖となった小中学校が複数ありました。

本校は現段階で閉鎖措置となるほどの大流行とはなっていませんが、罹患者や発熱などの体調不良を訴える生徒が少しずつ増えてきています。目に見えないウイルスは完全には防げませんが、感染防止対策を継続してまいります。保護者・地域の皆様におかれましてもご自愛ください。

さて、11月4日～6日の3日間、広島県竹原市に視察研修に行きました。ご存じの方も多いと思いますが、竹原市はニッカウヰスキー創業者である竹鶴政孝氏の故郷です。令和5年に竹原市と余市町は友好交流都市の締結を結んでいます。それが縁で、黒川小学校と竹原小学校ではonline交流を3年前から行っています。今回は、さらに交流を広げ、充実させるため、互いの教育活動について知る機会としての視察でした。



竹原市は、「安芸の小京都」と呼ばれる歴史的な町並み保存地区があり、まるで江戸時代にタイムスリップしたような光景が広がっていました。昔ながらの町屋家屋を守るために、住民の方はもとより、企業へ家屋の貸出をすることで、貴重な文化財である町並みを守っているとのことでした。

このような観光資源を使った学習活動として、竹原中学校では総合的な学習の時間に「もっと竹原を知ってもらおう～竹原市観光ツアープラン～」という取組を行っていました。中学生が竹原市の観光プランを考え、旅行会社の方の指導助言を受けてアップグレードさせているとのことでした。最も評価の高かった観光プランは旅行会社が実際に売り出すということで、

非常に意欲的に取り組んでいるようです。故郷である竹原を振り返り、新たな発見をする、有意義な探究活動がなされていました。

また、ものすごい太い孟宗竹を切って竹筒にし、複数の穴で模様を付け、中にLEDライトを仕込んだ竹灯籠は夜になると大変美しく、「憧憬の路」というイベントで、中学生の作品も展示されたそうです。竹灯籠はお借りできるとのことでしたので、雪明かりの美しい季節に東中学校などで飾る予定をしています。

他にも教育活動にかかわることについてさまざまな協議をし、できるところから実現していくこととしています。現在、給食メニューを交換し、ご当地メニュー紹介などの取組も視野に入っています。

余市の歴史と文化、良さを学び、発信できる力を養う教育活動を本校のみならず、町内小中学校7校連携して取り組んでまいります。

## 「STOP! カスタマーハラスメント」

11月28日に余市町教育委員会作成の「学校におけるカスタマーハラスメント防止リーフレット」を町内小中学校7校が各校の安心メールにて配信しました。

近年、全国的に、いわゆる「カスハラ」と呼ばれる顧客等からの過剰な要求や威圧的な言動が社会問題となっています。北海道においても、その防止のため、「北海道カスタマーハラスメント防止条例」が制定され、本年4月1日から施行されております。

学校におきましても、児童生徒の健全な教育環境を守り、教職員が安全かつ安心して職務に専念できるよう、保護者・地域の皆様と協力しながら取組を進める目的で作成したものです。

皆様の趣旨を御理解いただき、お力添えをよろしくお願ひいたします。

○お互いを尊重し、  
思いやりのある言葉を  
学校は、児童生徒・保護者・地域が  
支え合う場所です

○「不満」は冷静に、  
「要望」は丁寧に  
感情的な発言や威圧的な態度は、  
児童生徒の学習状況にも影響します

○まずは話し合いで解決を  
不満や困ったことなどあれば、  
まずは話し合いましょう